

目次

1. 巻頭言:宮崎東のBCPについて
2. 第77回国立病院機構総合医学会参加報告
3. ロボットスーツ HAL®研修報告
4. 宮崎ジュニア・オーケストラによるオータムコンサート
5. 編集後記

国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆめ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。

宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

巻頭言

宮崎東病院のBCPについて 山下先生のご講演を踏まえて

BCP(Business Continuity Plan)とは、企業が、テロや災害、システム障害や不祥事といった危機的状況に置かれた場合でも、重要な業務が継続できる方策を用意し、生き延びることができるようにしておくための戦略です。病院にとっては、自然災害(地震、津波、台風、大雨)、火災、電子カルテシステムの障害、ハッキングによる身代金要求、医療事故や患者情報漏洩、職員の不祥事などが危機的状況に挙げられます。院長としては、地震と津波に対するBCPが特に不十分と考えています。

今年度出退勤管理システムを含めて、電子錠により人の出入りを把握し制限できるようにしたことは保安上のBCPです。新たな電子カルテシステムも、災害や停電に対するレジリエンスを高め、ハッキング等の攻撃に耐える力になります。ヒヤリ、ハット報告に代表される医療安全やICD、ICN等による感染対策は、日頃から実践しているBCP対策です。

当院は宮崎市南部、東は日向灘、北は宮崎空港に隣接し、海岸から700m、海拔は7mです。海岸の砂丘が自然の堤防になってはいますが、地震、津波、大型台風などが脅威になります。BCPにおいて最大の懸案がこれらの災害時の電源、医療ガスの確保です。人工呼吸器が40台以上稼働し、酸素吸入中の患者が常時20名以上入院中ですが、呼吸器を動かすのに必要な非常用電源は8時間程、予備の酸素ボンベは1日程しか維持できません。大きな災害の場合7日間は自前で耐える必要があると思っています。東病院城に籠城するイメージです。もしかすると近隣の住民の避難場所になるかもしれません。現時点で津波時の浸水想定区域には入っていませんが、津波が周囲から回り込んできて1階が浸水しただけでも電源、医療ガスが失われ、最悪の場合、薬剤を失い、臨床検査、放射線検査ができなくなります。

山下先生のご講演を踏まえると、東南海の巨大地震以上に足元の日向灘地震に備える必要があります。弱くても長い揺れであれば津波がきます。電源と医療ガスについては大きな投資になりますが、揺れに耐え、かつ浸水被害を免れるように確保に努めます。明日津波が来たらどうやってより安全に病院に来られるか、通勤手段を考えておいてください。水、食糧の確保、排泄物や汚物の処理、医薬品の確保などについてより具体的なBCPプランを作成します。

大きな災害が起こったあとには、コロナ後に適応している今以上の大きな社会の変化がきます。ダーウインの進化論では、強いとか大きいとかではなく時々の環境にうまく適応できた種が生き残ってきたとされています。病院にとってのBCPも変化に柔軟に対応できる能力のことかもしれません。職員の力を合わせて、医療界の変化にうまく適応しながら、災害への備えを進めましょう。



院長
伊井 敏彦



第77回国立病院総合医学会参加報告

2023年10月20日(金)、21日(土)に広島県で開催された第77回国立病院総合医学会へ当院から4題(口述1題、ポスター3題)の演題発表を行いました。新型コロナウイルス流行以降、完全対面形式となる学会で参加者は約6000名、特別講演、教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション、一般演題(応募数2,115題)ではそれぞれ活発な意見交換が行われ、大変賑やかな雰囲気とともに幕を閉じました。

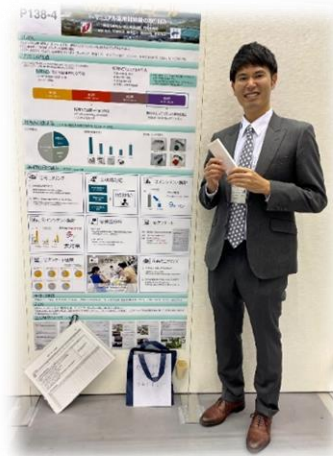
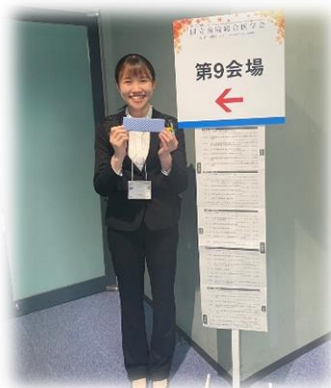
当院から4名が発表を行いましたので、各々よりご報告させていただきます。

リハビリテーション科 理学療法士 津崎 千佳

私は、10/21(土)に理学療法・人材教育のセッションで「ペルー障害児スポーツプロジェクトにおける調査票の作成」についてポスター発表を行いました。国際リハビリテーションや障害児スポーツは日々の業務になかなか馴染みのない分野ですが、身体活動量の増加やレクリエーションの手段に応用できることもあるため、今回の発表を通して、多方面の分野に関心を持つ療法士が増えてくることを期待したいと思います。

リハビリテーション科 作業療法士 大村 観月

先日行われた第77回国立病院総合医学会において、「ロボットスーツ HAL～業務改善への取り組み～」について発表しました。私自身初めての学会発表でとても緊張しましたが、当院リハビリテーション科の先生方をはじめ、みなさんのおかげで無事に発表を終えることができました。そしてとても嬉しいことにベスト口演賞に選んでいただき、感無量でした。本当にありがとうございました。この経験を次のステップへ、また日々の業務に活かしていきたいと思っています。



リハビリテーション科 作業療法士 案納 知久

私は、主に神経筋疾患の患者様に導入することの多い特殊スイッチを用いたナースコールシステムのマニュアルを作成したこと、そして、その活用を促進する取り組みを行ったことを中心に発表しました。

マニュアルを作成しただけで終わらせるのではなく、病棟スタッフと協働して患者様のために現在進行形で取り組んでいることを評価され、ベストポスター賞をいただくことができました。共同

演者の方々を始め、ポスター作成及び予演会に関わっていただいた方達すべてに感謝申し上げます。

また、ポスター貼付・閲覧時間中に私のポスターを見て下さっていた方々との意見交換を通して、他施設の取り組みや困り事などを知ることができるなど、とても有意義な機会となりました。このような素敵な場でまた発表が行えるよう、これからも精進して参ります。



この度、第77回国立病院総合医学会に参加し、昨年取り組んだ「一般病棟の看護師が考える、患者にとってより良い終末期をむかえるための研究」を発表してきました。発表では自分たちの研究に興味を持ってポスターを撮影してくれる人や、発表後に質問をいただきとても嬉しかったです。質問は「当院でACPを確認する共通ツールがあるのか？」という内容でした。実際にはそのようなツールはなく、看護師は何気ない会話で情報を得ています。研究でも、その情報を得る関わりが難しいと感じていたため、患者の意思決定やそのプロセスを確認するきっかけになるような何かがあれば良いと思いました。

初めての学会参加でしたが、認知症ケアや身体拘束時間縮小の取り組み、ハイフローセラピーを導入した退院支援といった研究発表の掲示があり、多くの人の取り組みを知り大変勉強になりました。特にハイフローセラピーを在宅で使用することは、日常生活を送る空間の把握がとても大切なのだを知ることができました。

看護研究の取り組みを振り返ると大変な時期もありましたが、看護研究や学会発表は勉強になり、良い刺激を受ける機会になると感じました。これからも看護研究が負担なく取り組めて、発表ができる環境があればより良いな思いました。

最後になりましたが、同じ病棟で働く方々をはじめ関わって下さった多くの皆様、活動時間や研究のインタビューなど、貴重な時間を割いていただき本当にありがとうございました。



ロボットスーツ HAL®の研修報告～サイバニクス治療の質向上を目指して～

リハビリテーション科 運動療法主任 川端 伸美

2023年9月27～28日、ロボットスーツ HAL®の研究施設の一つである国立病院機構新潟病院にて当院理学療法士2名が研修を受講しました。日々進歩するサイバニクス治療の最新の知見や取組み、また新潟病院ならではの工夫点など2日間で多くの学びや気づきを得ることができました。新潟病院では日本中からサイバニクス治療のために入院を希望される患者様がおられるとのことで九州からも受診・入院される患者さまがいるそうです。病院の規模は違えども患者さまに少しでも効果を感じていただきたいとの気持ちは互いに変わらず、新潟病院の先生方と意見交換を重ねることで当院のサイバニクス治療の方向性を見出し、取組みの可能性を広げることができると確信しました。この研修で学んだことを当院の診療や地域医療に貢献していけるよう精進して参ります。



<お知らせ>

2023年10月よりロボットスーツ HAL®の保険適応が拡大されました。HLTV-1 関連脊髄症(HAM)および遺伝性痙性対麻痺の2疾患が追加されます。これらの疾患により歩行に不安を抱えている方がいらっしゃいましたら、脳神経内科 HAL 外来にお問い合わせください。

対象疾患

- | | |
|------------------------|---------------------|
| ① 脊髄性筋萎縮症(SMA) | ⑥ 封入体筋炎(IBM) |
| ② 球脊髄性筋萎縮症(SBMA) | ⑦ 先天性ミオパチー |
| ③ 筋萎縮性側索硬化症(ALS) | ⑧ 筋ジストロフィー |
| ④ 遠位型ミオパチー | ⑨ HLTV-1 関連脊髄症(HAM) |
| ⑤ シャルコー・マリー・トゥース病(CMT) | ⑩ 遺伝性痙性対麻痺 |

～宮崎ジュニア・オーケストラによるオータムコンサート～

療育指導室 主任児童指導員 野間 菜津美

令和5年11月19日(日)に宮崎東病院大会議室にて、宮崎ジュニア・オーケストラによるオータムコンサートを開催いたしました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、感染症対策として面会を制限したり、行事などの企画を控えたりする日々が続いていました。今年に入り、新型コロナウイルスが2類から5類に引き下げられ、少しずつ制限を緩和することができるようになりました。そして、4年ぶりに宮崎ジュニア・オーケストラの皆様に来ていただき、オーケストラの生の演奏を患者様に体験していただくことができました。



今回、26名の宮崎ジュニア・オーケストラの皆様に来ていただき、様々な楽器紹介を交えつつ演奏を楽しみました。バイオリンやチェロ、ヴィオラ、コントラバス、フルート、クラリネット、ホルン、トランペット、トロンボーン、ティンパニーなどの紹介と実演された音の違いに、患者様は感心したり驚かれたりと表情豊かに聞き入っておられました。また、指揮を務める土田浩先生のユーモアを交えた説明に笑いが起こる場面もあり、終始穏やかな時間を過ごすことができました。

宮崎東病院大会議室は、設計段階からオーケストラの演奏が綺麗に聞こえる構造となっており、心地よい響きが残るとオーケストラの方からのお墨付きをいただいています。4年ぶりの演奏でも「響きがいいですね」との言葉をいただきました。演奏は、聞き馴染みのある「魔女の宅急便」のサウンドやハンガリー舞曲第5番など生活の中のどこかで一度は耳にしたことのある曲ばかりでした。患者様からも「知っている曲が多くて楽しめた」と好評でした。

感染対策のため、入院患者様の参加を積極的に行い、外部への案内はホームページ上でのお知らせとしていましたが、車椅子の患者様4名、ベッドで人工呼吸器を装着した患者様5名が参加され、癒しのひと時を味わうことができました。感激した様子でみなさん楽しまれたようです。今後も感染状況を見極めながら、患者様にとって癒しの時間、音楽を通して交流が図れるようにしていきたいと考えています。

宮崎ジュニア・オーケストラの皆様、本当にありがとうございました。

編集後記

「ねえエントツってなあに?」「サンタさんってなんであかいようふくなの?」3歳の娘から答えに窮する質問攻めにあい困りつつ、我が家は早めにAmazon サンタに贈り物をお願いしてクローゼットに隠してあります。早いもので、2023年も暮れですね。皆様にとって2023年はどのような1年だったのでしょうか。2024年も幸多き1年となることを切に願っております。

編集員 M



4階病棟(療養介護病棟)クリスマス装飾